シリーズGノート

まずはこれだけ！ 抗菌薬の選び方と使い方のシンプルメソッド

感染症の診断から原因菌の推定、治療効果判定まで、もう迷わない！

contents

◆ 序 …… 三村一行

◆ 付 録

① 感染症診療のフローチャート …… 6

② 感染症診療シート …… 7

③ 主要抗菌薬一覧 …… 8

④ グラム染色分類 …… 12

◆ 略語一覧 …… 13

第１章　総論～感染症診療の流れ

1 はじめに：抗菌薬使用のルーチンワーク ～誰もが実践できる，適切なアプローチ …… 16

2 感染症診断のための発熱アプローチ４ステップ …… 18

3 診断：最低限必要なものは？ …… 26

4 原因微生物の推定をしよう ～最低限押さえておくべき微生物の基本知識 …… 31

5 初学者が押さえておくべき抗菌薬の各論 …… 63

6 ソース・コントロール評価 ～抗菌薬以外に大切な治療成功要因 …… 82

7 重症度評価と抗菌薬の初期選択の方法 ～起因菌のカバー範囲を決める …… 85

8 治療効果判定 ～臨床経過は「改善，横ばい，悪化」のうちのどれ？ …… 89

第２章　市中で感染症を診る～症候／疾患別アプローチ

1　肺炎アプローチ
～「発熱＋咳嗽＋呼吸困難」症例の対応 …… 100

2　尿路感染症（膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎）アプローチ
～主訴が「発熱のみ」症例の対応 …… 112

3　胆道感染症（胆嚢炎，胆管炎）アプローチ
～患者因子が複雑な症例への対応 …… 130

4　蜂窩織炎アプローチ
～クラスター化が重要な症例への対応 …… 145

第３章　これだけはダメ！ 外来での感染症診療におけるNG行動

1　ウイルス感染症疑いに抗菌薬を投与する …… 166

2　フォーカス不明型に精査をせずに抗菌薬を投与する …… 177

3　不明熱型に精査をせずに抗菌薬を投与する …… 181

◆ 索 引 …… 184

謹告

本書に記載されている診断法・治療法に関しては，発行時点における最新の情報に基づき，正確を期するよう，著者ならびに出版社はそれぞれ最善の努力を払っております．しかし，医学，医療の進歩により，記載された内容が正確かつ完全ではなくなる場合もございます．

したがって，実際の診断法・治療法で，熟知していない，あるいは汎用されていない新薬をはじめとする医薬品の使用，検査の実施および判読にあたっては，まず医薬品添付文書や機器および試薬の説明書で確認され，また診療技術に関しては十分考慮されたうえで，常に細心の注意を払われるようお願いいたします．

本書記載の診断法・治療法・医薬品・検査法・疾患への適応などが，その後の医学研究ならびに医療の進歩により本書発行後に変更された場合，その診断法・治療法・医薬品・検査法・疾患への適応などによる不測の事故に対して，著者ならびに出版社はその責を負いかねますのでご了承ください．

※ URLの閲覧には標準的なインターネット接続環境が必要です．URLは2024年3月現在の情報です．今後変更になる可能性があります．なお通信環境やご利用のパソコン・モバイル端末の種類などのアクセス環境によって，正常に接続できないことがあります．あらかじめご了承ください．